

VOL. 29  
2022.春号

# NANAIRO

なないろ



# 新年度を迎えて

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックから2年。新たな変異株の脅威に曝されながらも、少しでも社会生活の営みが戻ってきた印象の春。令和4年度がスタートしました。今年も、理学療法士、看護師、介護福祉士などフレッシュな人材が社会福祉法人あきの会のメンバーに加わりました。虹の家では、より多くの皆様の安全で安心な生活をサポートすべく、昨年度にひく続き専門性向上に取り組むことを令和4年度の目標に掲げています。その3本柱をご紹介します。

## 1 摂食嚥下チーム

### 摂食嚥下評価

福岡和白病院と連携したVF検査、和白歯科と連携したVE検査の実施  
摂食嚥下評価の職員スキル向上  
評価に基づいた食事介助(姿勢・食形態・スプーンの選択)



VF検査

### 嚥下食の改善

「福岡和白病院と連携したVF検査・和白歯科と連携したVE検査を導入し摂食嚥下評価の職員のスキル向上を図ります。評価に基づいた適切な食事介助提供を目指します。」



VE検査

## 2 呼吸ケアチーム

### 呼吸療法認定士による勉強会

呼吸評価や排痰などの職員スキル向上  
適切なポジショニングの実施



### リラックスできる姿勢保持

筋緊張を落とし安定できるシーティングスキル向上



## 3 療育活動チーム

「利用者の「アクティブ」を引き出すための活動の検討」と「エビデンスの検証」

- 個別支援向上委員会 ●

# シリーズ療育 PART1

療育の新たな試みをシリーズでご紹介します。今回は、個々の能力に応じた活動の提供に挑戦した生活介護のレクリエーションの工夫をご紹介します。ほぼ寝たきりで自発運動のない「臥位チーム」、上肢や指がつかえるが援助が必要な「中間チーム」、ある程度自分で考えて行動ができる「作業チーム」の3つのグループに分け、作業やゲームに参加できるよう工夫しました。

企画：作業療法士 三宅敬太

## 3月の季節行事：ホワイトデーのキャンディ投げゲーム

### 01 | キャンディ制作

#### 臥位チーム

スタッフが利用者の手を持ち、新聞紙を掌で丸める。  
※スタッフとスキンシップを図りながら、掌の刺激、新聞紙の丸める聴覚刺激を入力することを目的とした活動。

#### 中間チーム

丸めた新聞紙をスタッフと共にラッピングする。  
※座位姿勢をとり上肢や指の運動を促すことを目的とした活動。

#### 作業チーム

ラッピングされたキャンディに色付けなどを行う。  
※自ら考えて色を選んだり大きさを工夫したりすることで、スタッフや他利用者とコミュニケーションをとることを目的とした活動。



### 02 | キャンディ投げ

作ったキャンディを投げて、籠でキャッチしたキャンディの得点を競うゲームです。  
本人の能力に応じて、自分で籠を動かす人、職員と一緒に籠を持つ人、体全体を職員に支えられ籠でキャッチする人と様々に、頭の上から降ってくるキャンディに皆さん大興奮でした。  
寝たきりで自分で動けない人も、キャンディを目で追ったり、キャンディが体にぶつかる刺激をうけたり、職員のぬくもりを感じたりと活動に参加できました。



### 他のスタッフの感想

- いつも一人で玄関にいるM君も一緒に折り紙を触ったりしてコミュニケーションをとることで嬉しそうな表情で作成していました。
- 各チームの特色を活かして行えたと思います。
- 日頃制作活動に参加されていない方も参加し楽しそうだった。
- キャンディ投げは、とても盛り上がりよかった。みんなが参加でき、一人一人スキンシップが取れてよかった。



### 成人式

昨年度は、コロナ感染対策のため個別のお祝いを行う形をとりましたが、比較的感染が落ち着いていたこともあり、保護者の方を交えた成人式を執り行うことが出来ました。今年は、入所1名、生活介護2名、就労3名の合計7名が新たに大人の仲間入りをしました。一人一人の誕生から現在までの写真をスライドショーにし披露しました。職員も一人一人の成長の軌跡を知る機会となり、お母様方の涙にもらい泣きをしました。

例年行っていた祝賀会は感染対策のため中止し、その代わりに、生活介護、入所に分けて、成人式お祝いbuffeを楽しみました。

1/8  
Sat



1月～4月の  
院内行事

### 節分

入所の江美さん扮する鬼めがけて、新聞紙の豆をまいて、そのあと、入所のトミオさんが禰宜に扮し祝詞をあげ、無病息災を祈りました。

2/3  
Thu



### ひな祭り

雛人形と一緒に、虹の家の内裏様とお雛様のツーショット写真撮影を行いました。

皆さん笑顔!笑顔!です。保育士の佐藤支援員のキーボード演奏でさらに盛り上がりました。

写真を全部紹介できず残念ですが、中川副主任撮影で本格的な仕上がりになっておりご家族にお送りしました。

3/3  
Thu

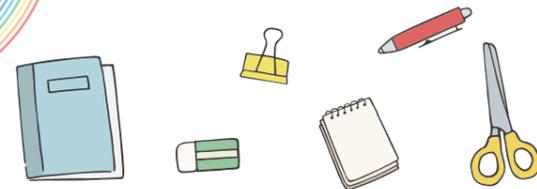


### 入職式

今年は、生活介護2名と就労支援1名の新社会人として虹の家・みかんの樹を利用することとなりました。

これから、たくさんの経験を積み、楽しい人生にしましょう!!

4/6  
Wed



三菱電機株式会社様よりご寄附をいただきました

令和4年3月15日、三菱電機株式会社九州支社 真鍋支社長 他3名の皆様が、虹の家に来所され、院長に寄附贈呈書が手渡していただきました。寄贈頂いた電化製品は大切に使用させていただきます。



感謝

虹の家開設当初から、短期入所受入窓口として従事いただいていた浪崎看護師さんが、令和4年3月末で、短期受入窓口を引退することになりました。7年半の感謝をこめて花束と記念品贈呈を行いました。御年78歳。これからも、スタッフやご利用者ご家族の相談役として、虹の家に関わっていただくことになっています。



令和4年2月11日 長末 沙弥香さん(23歳)が永眠されました

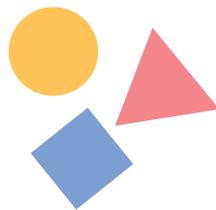
長末さんは、難病のため脳卒中発作が重積し、胃瘻増設となり自宅での介護が困難となり、北九州を離れ平成30年12月に入所されました。成人式は虹の家でお祝いを行いました。おばあ様のご準備いただいた着物をきて記念写真を撮りました。沙弥香さんは、肌がすけるように白くて愛らしく、色々な行事も参加し、穏やかな時間を過ごされていました。昨年末から病気の進行のため血糖値の上昇やイレウスのため、虹の家の近くの病院に入院しました。虹の家での看取りも検討しましたが、おばあ様がいつでも駆け付けられるよう自宅に近い病院に転院できるよう調整を行い、令和4年1月12日に転院となりました。サービス管理責任者の中川副主任が同行し、スタッフからのメッセージ入り色紙を手渡しました。転院後、1か月の突然の訃報に驚くとともに、おばあ様の胸の中で旅立たれたことに胸が熱くなりました。ご冥福をお祈り申し上げます。



看護師 主任 春田 たけみ

お母さんが早くに同じ病気で亡くなり、お母さんの代わりにおばあちゃんに一生懸命育てられた沙弥香さんでした。23歳という短い人生でしたが、最後は40°Cからの熱があり呼吸するのも苦しいなか、大好きなおばあちゃんのもとへ自ら動いて行き、おばあちゃんに抱かれたまま、ゆっくりといつの間にか息絶えて逝ったとの事です。おばあちゃんに、1時間余り抱かれ、安心して空の上のお母さんのもとへ旅だったのでしょうか。ピンクの棺の中には成人式で着た着物に身を包まれ、綺麗にお化粧された穏やかな顔の沙弥香さんと会うことができ、虹の家のスタッフ数人で代表してお別れをして来ました。おばあちゃんは、転院して少し元気になった頃には、もう一度虹の家に戻れるのではないかと考えていたとのことでしたが、残念ながら、沙弥香さんもおばあちゃんも私達もその夢はかないませんでした。今日私たちの心の中には、帰って来てくれたと思います。





社会福祉法人  
あきの会

<http://akinokai.jp/>

## 虹の家

障がい児者医療生活支援ホーム

〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目15番10号

TEL/092-651-7325 FAX/092-651-2420

## みかんの樹

MIKAN 森のかまどやの亭

〒811-0101 福岡県粕屋郡新宮町原上1223-4

TEL/092-962-0585 FAX/092-962-0527



Instagram